



ついに新しい年度が始まりました。何度経験しても緊張します。多くの人が私と同じ思いと想像しています。課題は沢山あり、その上にこの一年に更なる難題が突きつけられるかもしれません。私として心強いのはクラブ会長・幹事の方々の熱い情熱と、地区各委員会役員の方々の皆さんのしっかりした知識と熱意です。わからないことは皆で相談し結論を出す・・・この方式が漸く定着しつつあることを何よりうれしく思います。「三人よれば文殊の知恵」これを私のキー・ワードにして任を全うす所存です。皆さんどうかご教導の程よろしくお願いいたします。

災害が起こる。さいわい自分は被害軽微であった。その時その人はどういう態度をとるか、人の値打ちはここで決まる。こんな時、己を顧みず、困窮した人々を助けた人々を私達は美談として多く伝えてきた。立派な行為とその人を尊敬してきた。人類に進歩と名付けてよいものがあるとすればここなのだろう。退歩と断ずべきものとすれば、それを見て見ないふりをするとか、それが救うべき価値あるものかといわずらに議論し果ては無関心を装う心の退廃であろう。退歩がじわじわ進むといつか報復される。個人なら人徳なしのレッテルをはられ、国ならば他国から何となく嫌われ始め、大事な時協力をえられぬ。今や世界は温暖化により新たな多くの問題を抱え始めている。海面の上昇による沈下をとめなければならぬ、国、凍土が減り水量のコントロールが必要な国等々、これらに関係し、飢餓・疫病・貧国・抗争・識字能力の低下等、人類長年の課題はむしろ悪化しそうな勢いである。これで世界は進化しているといえるのだろうか？

どの年も大切な年はない。一見平穏に見えても運営の易しい年がある訳もない。真剣であればある程、難しいはずだ。だからこそ我々は友情を更に大切にし互いに手をつなぎ、時に庇いあって・・・人類の進歩に貢献しようではありませんか。皆さんの勇気と健闘を祈ります。

いかに広報活動を広めるか

広報委員会 委員長 小俣 芳晴（東京高輪RC）



「ロータリーの広報活動をいかに拡大するか」—— 広報委員会が五大委員会になって三年が経過した。これまで試行錯誤で、委員会を運営してきた。その結果、「各クラブへの広報活動のお手伝い」という基本理念で昨年まで活動した。一方で、「ロータリーの知名度を上げるには」ということで、公共イメージ向上の活動も行ってきた。その成果は、徐々に上がってきている。

広報活動は、意外と難しい。お金を使った宣伝活動いわゆる広告に頼ることができないからだ。パブリックリレーションを中心に活動の理解を広めることが任務だからということだ。それには、いろいろな事を研究した。まず、各クラブが、どんな広報活動を行っているかを、知る必要があった。また、各クラブがどんな奉仕活動を行っているかの調査も必要だった。クラブにより活動が異なるからだ。第2750地区所属のクラブ奉仕活動は、多岐にわたっている。

地域清掃、少年スポーツ活動の支援、介護活動はじめ挙げればきりが無い。クラブに聞いてみると地元密着型の活動を実施している事が案外多い。クラブによって広報活動を重視し、地元新聞、ケーブルテレビ等に紹介しているクラブもある。しかし、その数は意外に少なかった。

昨年度のバスタガバナーの新藤さんは、「クラブ中心の広報に重点を置き指導して載きたい」との要請があった。確かに一クラブでの広報活動は、何をしてもいいかわからないという所が多かった。そこで、要請があったクラブを訪問し、卓話形式で「どんな広報をしたらよいのか」「クラブでの広報活動の基本」「広報活動の具体例」等を説いて回った。19クラブから要請があった。たかが19というけれど、所在地により約1日かかるとのケースもあった。結果は、というところ結構効果があったと思う。

次期会長セミナー等で「広報活動は、自分が足で動く事が一番だ」と常づね説いてきた。私事で恐縮だが、これが本当の体験談だからだ。新聞記者も相手から送られてきたニュースリリースの記事を書いてもなかなか掲載されない。自分で相手に行き書いた記事は、前者とは、まったく違うし載せてくれるのだ。本年度もそうした活動に重点を置きたい。

一方、公共イメージに関しては、大きな実績がある。第二ゾーン・コーディネーターの司 葉子さんが警視庁とタイアップした「飲酒運転撲滅活動」もマスコミが大きく取り上げ大成功だった。また、ここ3年「東京マラソン」の給水支援ボランティア活動が広くアピールできた。660名の会員、家族、インター、ローターアクターが参加し、あのブルーののぼりが、中継放送で流れ、ロータリーがやっているな、とおおいにPR活動一環になったと思う。第4回目は是非行いたいと計画している。

さらに、本年度は、地区の補助金が最大10,000ドルまで地区に案件により交付されるため、「会員増強及び公共イメージ向上DVD」を作成し、各クラブはもとより、マスコミ等に配布できたらと、企画し6月末に申請した。

広報に関してご相談を受けておりますので、ガバナー事務所を経由してお問い合わせ下さい。

